

磯崎新 + 渡邊守章

司会 = 浅田彰

シンポジウム 『空間と身体』

京都造形芸術大学の比較藝術学研究センターは、大学院長・浅田彰がセンター所長を兼任する形で、新たな方向へと動き始めました。今年度は「諸藝術の交差」という研究テーマを掲げ、それに即して何度か公開講座を開くことを予定しています。まずその第一弾として、古今東西のパフォーミング・アーツに造詣の深い建築家と、世界中の多種多様な舞台空間を知り尽くす演出家が、演劇を参照しながら、「空間と身体」一般に関して対話を繰り広げます。なお、この企画は大学院および舞台芸術研究センターとの共催であり、大学院公開講座<アサダアキラ・アカデミア>とも連動して開催されます。

【磯崎新】 1931年生

日本のモダニズムを代表する建築家・丹下健三に師事、1970年大阪万博ではお祭り広場を手がけたが、そこからミニエリスムへと転じ、「つくばセンタービル」(1983年竣工)などによって世界的なポストモダニズムへの転回を主導した。その他、ロサンゼルス現代美術館やバルセロナ・オリンピック体育館(パラウ・サン・ジョルディ)、また近年では深圳文化中心や上海征大ヒマラヤ芸術センターなど、関西でいえば京都コンサートホールやなら百年会館、あるいは奈良町現代美術館など、国内外で数多くの建築を実現してきている。

他方、1960年代からネオダダのアーティストたちと交流するなど、その関心は建築を超えて広く文化全般に及ぶ。演劇に関しては、鈴木忠志とのコラボレーション(利賀芸術公園、水戸芸術館、静岡県舞台芸術センター)が目立つが、もう一つの作品である東京グローブ座で渡邊守章が「ハムレット」を上演するなど、一部にとどまらない大きな影響を与えてきた。

また、多作な理論家でもあり、「空間へ」(美術出版社、1971年)や「建築の解体」(同、1975年)から「建築における『日本のなもの』」(新潮社、2003年)に至る多くの著書があるほか、1991年から2000年まで、ピーター・アイゼンマンらと共に建築と哲学の対話の場として「ANY CONFERENCE」シリーズを組織してきた。

【渡邊守章】 1933年生

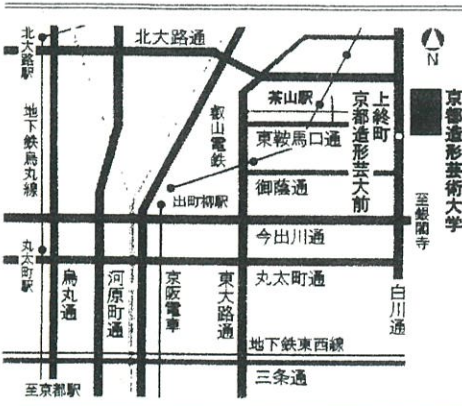
日本を代表するフランス文学者・翻訳家であり、演出家である。ラシーヌ、そしてとくにマラルメやクローデル、さらにはジュネに関する研究で世界をリードすると同時に、その作品を邦訳し、演出・上演する活動を続けてきた。彼の演出したラシーヌの「フェードル」がフランスでも上演されたこと、彼の演出したジュネの「バルコン」がプレイヤード版ジュネ戯曲全集の解説で取り上げられたことは、その水準の高さを示す「事件」といえる。同時に、能を研究し、自ら創作能を書くなどしてそれを現代に生かす試みも続けてきている。最近著に「欲望と快楽」(新書館、2009年)がある。

東京大学教授、放送大学副学長(放送大学では世界中の劇場や演劇を広く調査・取材した)をへて、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長。

司会 = 浅田彰(京都造形芸術大学大学院長)

- 主催 京都造形芸術大学 比較藝術学研究センター
 - 共催 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター、京都造形芸術大学大学院
 - 問合せ先 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
- 電話:075-791-9207

URL : <http://www.k-pac.org/>



- JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
- 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204循環に乗り、
「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)
- 京阪電鉄出町柳駅から
叡山電鉄に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでの
ご来場はお断りします。



2009年11月13日(金) 14:30開場 / 15:00開演
京都芸術劇場 春秋座(京都造形芸術大学内)
入場無料(当日先着順・事前申込み不要)